

教育研究業績書

2017年05月29日

所属：食物栄養学科

資格：教授

氏名：福尾 恵介

研究分野	研究内容のキーワード
老年医学、臨床栄養学、がん栄養	老化、低栄養、サルコペニア、SNP、栄養サポート、人材育成
学位	最終学歴
医学博士	鳥取大学 医学部 医学科 卒業

教育上の能力に関する事項		
事項	年月日	概要
1 教育方法の実践例		
1. 広域大学連携による「臨床医工学・情報学」高度人材育成の構築	2011年	平成20年度採択された文部科学省戦略的の大学連携事業（本学が代表校）として、「リベラルアーツ教育」「社会教育」「理系女性育成教育」「プレプロフェッショナル教育」を関西5大学が連携して継続している。「健康とライフサイエンス」と題する講演を理系の学生に行った。
2. 市立西宮高校にて講演	2011年	
2 作成した教科書、教材		
1. 管理栄養士養成シリーズ「臨床栄養学」	2014年8月20日	16章脳・神経の病気 認知症をきたす代表的な疾患であるアルツハイマー病、パーキンソン病・症候群について解説した。
2. 疾病の成因・病態・診断・治療（第2版）	2011年3月10日	9. 神経・精神系 神経・精神系の疾患である脳出血・脳梗塞、老年期認知症、パーキンソン病などの成因、病態、診断、治療についてそれぞれ解説した。
3 実務の経験を有する者についての特記事項		
4 その他		

職務上の実績に関する事項		
事項	年月日	概要
1 資格、免許		
1. 医師免許	1979年05月	
2 特許等		
3 実務の経験を有する者についての特記事項		
4 その他		

研究業績等に関する事項				
著書、学術論文等の名称	単著・共著書別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は学会等の名称	概要
1 著書				
1. 生活習慣病概論	単	2012年01月	Helicobacter Research	<p>椿本真紀・福尾恵介・須原敏光・荻原俊男 動脈硬化における内皮細胞のもつ、重要性と内皮のアポトーシスがどのような意義をもつか、さらに、そのメカニズムについて、概説した。担当（pp.105～108）</p> <p>福尾恵介・荻原俊男 長寿社会になり、病気の原因として、遺伝的素因と環境因子とともに加齢によるファクターが重要な因子として、近年注目されている。本項では、病的老化の持つ意義や病気との関係と入力メカニズムについて、最近の知見を踏まえて概説した。担当（pp.177～178）</p> <p>福尾恵介・荻原俊男 加齢によって生じる動脈硬化の特徴とそのメカニズムについて概説した。担当（pp.329～332）</p> <p>福尾恵介・鳥羽研二・島本和明・荻原俊男 老年医学全般に関するテキスト。総論と各論からなる。担当（pp.2～5）</p>
2. Enhancement of NO bioavailability by ACEI and ARB	単	2004年09月	日本臨床	
3. 動脈硬化と内皮のアポトーシス	共	2003年07月	血管 26巻	
4. 加齢と老化	共	2003年06月	臨床と研究 80巻	
5. 加齢による動脈硬化	共	2003年05月	腎と透析 54巻	
6. 老年医学	共	2003年05月	朝倉書店 1版	
2 学位論文				

研究業績等に関する事項

著書、学術論文等の名称	単著・ 共著書別	発行又は 発表の年月	発行所、発表雑誌等 又は学会等の名称	概要
2 学位論文				
1. Effects of prostaglandins on the cytosolic free calcium concentration in vascular smooth muscle cells.	共	1986年4月	Biochem Biophys Res Commun	プロスタグランジンが、血管平滑筋細胞において細胞内カルシウムを上昇させることを初めて報告した。
3 学術論文				
1. 1. Low hemoglobin levels contribute to low grip strength independent of low-grade inflammation in Japanese elderly women .	共	2015年	Asia Pac J Clin Nutr.	ヘモグロビン値と握力が関連することを明らかにした。
2. Association of adiponectin with serum preheparin lipoprotein lipase mass in women independent of fat mass and distribution, insulin resistance, and inflammation.		2014年8月	Metab Syndr Relat Disord.	血中のアディポネクチン濃度とリポプロテインリパーゼ活性がインスリン抵抗性とは異なったメカニズムで関連することを明らかにした。
3. 5. Serum copper, zinc and risk factors for cardiovascular disease in community-living Japanese elderly women.	共	2014年2月	Asia Pac J Clin Nutr	地域の高齢者において、血清のCuとZn濃度と心血管リスク因子が関連することを明らかにした。
4. 3. Association of pulse pressure with serum TNF- α and neutrophil count in the elderly.		2014年	J Diabetes Res.	脈圧と血中のTNF- α 濃度や好中球数が関連することを明らかにした。
5. 2. 若年女性におけるサーチュイン (SIRT1) 遺伝子多型と生活習慣病関連指標と血清PAI-1濃度との関係		2014年	日本臨床栄養学会雑誌, 36巻	若年女性において、長寿遺伝子として知られているサーチュイン遺伝子多型と血中のPAI-1濃度が関連することを明らかにした。
6. Associations of 18-year-old daughters' and mothers' serum leptin, body mass index and DXA-derived fat mass.	共	2010年10月	J Atheroscler Thromb.	Tanaka S, Bin W, Honda M, Nanbu S, Suzuki K, Fukuo K, Kazumi T. 本学女子学生と母親を対象として、母親が18歳のときのBMIとその娘である女子学生のBMIとの間に相関を認めること、また、血中レプチン濃度やDXAによって測定した体脂肪分布においても両者に相関関係を認め、娘の体脂肪の蓄積には母親の影響が大きい可能性を示した。
7. Homocysteine enhances endothelial apoptosis via upregulation of Fas-mediated pathways.	共	2004年06月	Hypertension	Suhara T, Fukuo K, et al.
8. Fas signaling induces Akt activation and upregulation of endothelial nitric oxide synthase expression.	共	2004年04月	Hypertension	Takemura Y, Fukuo K, et al.
9. Fas signaling induces Akt activation and upregulation of endothelial nitric oxide synthase expression.	共	2004年02月	Hypertension 43巻 4号	Takemura Y, Fukuo K, Yasuda O, Inoue T, Inomata N, Yokoi T, Kawamoto H, Suhara T, Ogihara T アポトーシス誘導受容体であるFasが、血管内皮細胞におけるNO産生酵素の発現制御に重要な役割を果たすことを初めて明らかにした。担当 (pp. 880~884)
10. Eicosapentaenoic acid protects endothelial cells against atherosclerosis through restoration of cFLIP.	共	2003年07月	Hypertension 43巻 4号	Suzuki T, Fukuo K, Suhara T, Yasuda O, Sato N, Takemura Y, Tsubakimoto M, Ogihara T エイコサペンタエン酸は魚油に含まれ、抗動脈硬化作用を有することが知られているが、そのメカニズムは不明であった。本研究では、エイコサペンタエン酸が血管内皮細胞の生存を高めることにより、内皮機能を保つことにより抗動脈硬化作用を発揮する可能性を示した。
11. Nifedipine upregulates manganese superoxide dismutase expression in vascular smooth muscle cells via endothelial cell-dependent pathways.	共	2003年06月	Hypertension Research 26巻 6号	Fukuo K, Yang J, Suzuki T, Kaimoto T, Takemura Y, Yasuda O, Suhara T, Sato N, Ogihara T カルシウム拮抗薬ニフェジピンが血管平滑筋細胞と内皮細胞の細胞間相互作用により血管平滑筋細胞の抗酸化機構であるMuSCOの発現を促進することを明らかにした。担当 (pp. 503~508)
その他				
1. 学会ゲストスピーカー				
2. 学会発表				
1. 若年女性と母親における新規動脈硬化遺伝子 (Apop-1遺伝子) 多型の測定意義について	共	2012年01月		辻久美子、福尾恵介
2. 異なる凍結速度によるA. franciscana凍結胚の孵化率推移とその氷晶状態	共	2011年12月		鮫島由香、福尾恵介、吉田徹
3. 地域在宅高齢女性におけるサルコペニアの実態に関する検討	共	2011年11月		正木志歩、福尾恵介

研究業績等に関する事項

著書、学術論文等の名称	単著・共著書別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は学会等の名称	概要
2. 学会発表				
4. 認知症有無別にみたPEG患者栄養状態と術後トラブルについて	共	2011年11月		森垣知美、福尾恵介、鞍田三貴
5. 武庫川女子大学栄養サポートシステムの開発	共	2011年11月		鞍田三貴、福尾恵介
6. 高齢者の腎障害には血清亜鉛低下と慢性炎症が関連する	共	2011年10月		坪井彩加、福尾恵介、鹿住敏
7. 中年女性においてFTO遺伝子多型は体脂肪蓄積、高血糖、慢性炎症に相関する	共	2011年10月		田中翠、福尾恵介、鹿住敏
8. 若年新規ミトコンドリアタンパク質Apop-1の遺伝子多型解析を応用した動脈硬化リスク因子に関する研究	共	2011年10月		山本遥菜、福尾恵介、谷野永和、鹿住敏
9. 若年非肥満女性におけるFTO遺伝子多型の体脂肪と摂取エネルギー量に与える影響『アスリートと非アスリートの比較』	共	2011年05月		田中翠、吉田徹、福尾恵介、鹿住敏
10. NO合成酵素阻害によって誘発される高血圧のTimp-3欠損マウスにおける解析	共	2003年11月		河本秀宣・安田修・福尾恵介・荻原俊男 メタロプロチナーゼの内因性阻害因子であるTIMP-3の欠損マウスを用いて、NO合成阻害剤の慢性投与では高血圧の発症が生じないことを報告した。
11. 高齢者高脂血症患者におけるスタチンの抗炎症効果—短期投与での検討—	共	2003年11月		小谷紀子・福尾恵介・安田修・杉本研・勝谷友宏・荻原俊男 高齢者の高脂血症患者においてスタチンが抗炎症作用とともに、内皮機能改善効果を有することを明らかにした。
12. Upregulation of endothelial plasminogen activator inhibitor 1 (PAI-1) expression by high glucose through activation of apoptosis signal-regulating kinase 1 (ASK1).	共	2003年11月		Yokoi T, Fukuo K, Ichijo H, Suzuki T, Yasuda O, Ogihara T 内皮細胞における血栓形成に関与するPAI-1の発現促進作用にASK-1が関与することを遺伝子導入系を用いて明らかにした。
13. ウェルナー症候群における老化の特徴	共	2003年11月		安田修・竹村幸宏・福尾恵介・荻原俊男 早老症であるウェルナー症候群の症例における遺伝子解析と臨床的特徴について報告した。
14. High glucose upregulates plasminogen activator inhibitor-1 (PAI-1) expression through activation of apoptosis signal-regulating kinase 1 (ASK1) in endothelial cells.	共	2003年09月		Yokoi T, Fukuo K, Hotta M, Miyazaki J, Ichijo H, Ogihara T 高グルコースにより、内皮細胞にPAL-1の発現が誘導されるメカニズムにASK-1が関与することを明らかにした。
15. Eicosapentaenoic acid promotes endothelial cell survival through upregulation of the cellular FLICE-inhibitory protein.	共	2003年09月		Suzuki T, Fukuo K, Suhara T, Ogihara T 魚油に含まれるエイコサペンタエン酸 (EPA) の抗動脈硬化作用のメカニズムを細胞培養系で明らかにした。
16. 動脈硬化症の遺伝子解析	共	2003年07月		安田修・福尾恵介・荻原俊男 動脈硬化特異的に発現が亢進する新規遺伝子の発見について報告した。
17. エイコサペンタエン酸による内皮細胞のアポトーシス抑制作用	共	2003年06月		鈴木隆志・福尾恵介・須原敏充・安田修・椿本真紀・荻原俊男 エイコサペンタエン酸 (EPA) の抗動脈硬化作用のメカニズムとしてEPAが内皮細胞のアポトーシス (細胞化) の誘導を抑制することが関与することを示した。
18. 血管内皮細胞における生存シグナルAktを介したアポトーシスの抑制	共	2003年06月		須原敏充・福尾恵介・荻原俊男 内皮細胞において生存シグナルAktを保つことが動脈硬化の発症予防に重要であること、さらに、その制御機構について示した。
3. 総説				
4. 芸術 (建築模型等含む) ・スポーツ分野の業績				
5. 報告発表・翻訳・編集・座談会・討論・発表等				
		2004年		
6. 研究費の取得状況				
1. 厚生労働科学研究費補助金		2014年4月	がん対策推進総合研究事業 (がん政策研究事業)	在宅がん患者の栄養サポートに精通した在宅医療福祉従事者の全国的育成システムの開発
2. 科学研究費補助金 (基盤研究B) 継続	共	2011年		新規ミトコンドリアタンパク質Apop-1の機能解明と健康科学への応用に関する研究
3. 基盤研究 (B) 継続		2011年		新規ミトコンドリアタンパク質Apop-1の機能解

研究業績等に関する事項

著書、学術論文等の名称	単著・共著書別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は学会等の名称	概要
6. 研究費の取得状況				
4. 基盤研究（B） 継続		2010年	地域医療基盤開発推進研究事業	明と健康科学への応用に関する研究 新規ミトコンドリアタンパク質Apop-1の機能解明と健康科学への応用に関する研究
5. 基盤研究（B） 新規		2009年		新規ミトコンドリアタンパク質Apop-1の機能解明と健康科学への応用に関する研究
6. 厚生労働科学研究費補助金		2009年		地域栄養支援活動による多職種参加型人材育成システムの開発研究
7. 基盤研究（B） 継続		2007年		新規動脈硬化遺伝子を応用した健康科学推進のための基礎的および臨床的研究
8. 基盤研究（B） 継続		2006年		新規動脈硬化遺伝子を応用した健康科学推進のための基礎的および臨床的研究
9. 基盤研究（B） 新規		2005年		新規動脈硬化遺伝子を応用した健康科学推進のための基礎的および臨床的研究
10. 基盤研究（C） 継続		2004年		動脈硬化特異的に発現が亢進する未知のアポトーシス誘導遺伝子の機能解明に関する研究
11. 科学研究費補助金基盤C 新規	共	2003年		動脈硬化に発現が亢進する未知のアポトーシス誘導遺伝子の機能解明に関する研究

学会及び社会における活動等

年月日	事項
1. 2014年4月	日本臨床栄養学会理事
2. 2012年4月	武庫川女子大学栄養科学研究所長
3. 2012年	武庫川女子大学女性研究者支援センタープロジェクトリーダー
	日本病態栄養学会評議員
	日本動脈硬化学会評議員
	日本内科学会近畿地方会評議員
	日本老年医学会代議員
	日本高血圧学会評議員